

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		神戸女学院大学		設置者名		学校法人 神戸女学院		
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成26年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
文学部	英文学科	140人	中一種免(英語)	平成12年度	145人	9人	9人	4人
			高一種免(英語)	平成12年度			9人	
	総合文化学科	200人	中一種免(社会)	平成12年度	198人	11人	7人	2人
			高一種免(地理歴史)	平成12年度			10人	
			高一種免(公民)	平成12年度			8人	-
			中一種免(国語)	平成24年度			-	
音楽学部	音楽学科 器楽専攻	29人	中一種免(音楽)	平成17年度	29人	15人	15人	0人
			高一種免(音楽)	平成17年度			15人	
	音楽学科 声楽専攻	8人	中一種免(音楽)	平成17年度	10人	2人	2人	1人
			高一種免(音楽)	平成17年度			2人	
	音楽学科 ミュージック・クリエイション専攻	2人	中一種免(音楽)	平成17年度	2人	1人	1人	0人
			高一種免(音楽)	平成17年度			1人	
人間科学部	環境・バイオサイエンス学科	80人	中一種免(理科)	平成22年度	96人	14人	12人	2人
			高一種免(理科)	平成22年度			13人	
入学定員合計		459人	合計		480人	52人	104人	9人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成27年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。							

大学名		神戸女学院大学		設置者名		学校法人 神戸女学院		
研究科・専攻等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成26年度)			
研究科	専攻等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
文学研究科	英文学専攻	13人	中専免(英語)	平成2年度	5人	0人	0人	0人
			高専免(英語)	平成2年度			0人	
	比較文化学専攻	5人	中専免(社会)	平成2年度	4人	0人	0人	0人
			高専免(地理歴史)	平成2年度			0人	
音楽研究科	音楽芸術表現専攻	7人	中専免(音楽)	平成12年度	4人	3人	3人	0人
			高専免(音楽)	平成12年度			3人	
人間科学研究科	人間科学専攻	10人	中専免(理科)	平成26年度	-	-	-	-
			高専免(理科)	平成26年度			-	
入学定員合計		35人	合計		13人	3人	6人	0人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成27年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。							

教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成27年11月4日（水）

実地視察大学：神戸女学院大学

実地視察委員：坂越正樹委員，谷田増幸委員

【全般的事項】

- 教員養成に関する教育課程及び教員組織等については、おおむね問題無く実施されている。
- ただし一部の教育課程について、「2.」で指摘するように、教育職員免許法施行規則及び教職課程認定基準等の観点からは是正すべき点を確認されたため、その点については、速やかに是正すること。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

- 学科・専攻毎の教員養成に対する理念・構想を明確にし、それを具現化するための教職課程に対する全学的な組織、教育課程及び教員組織をより一層充実させるように努めていただきたい。

2. 教育課程（教職に関する科目及び教科に関する科目）、履修方法及びシラバスの状況

- 「教職に関する科目」について、教育職員免許法施行規則第6条第1項表に定める「含めることが必要な事項」が含まれているか否か、シラバスからは判断できない授業科目や、科目の趣旨に照らして適切でないと見受けられる授業科目があるため、法令で扱うこととしている内容は必ず扱うとともに、科目の趣旨に照らして適切な授業内容となるように、内容を再度検討すること。なお、シラバスの記載内容及び記載方針を定め、法令に定める「含めることが必要な事項」が取り扱われているかどうかをシラバスの授業計画から確認できるようにすること。
- 「教育相談」、「教師論」について、開設方法や、履修時期等、より体系的な指導ができるカリキュラム構成を検討すること。
- 「各教科の指導法」に関する科目について、学習指導要領を参考書又はテキストとして含め、科目の趣旨に沿った内容を行っていることが明確になるようシラバスの授業計画から確認できるようにすること。
- 音楽学科の3専攻の教職課程の必要配置専任教員について、適切に配置されていない状況が確認された。教職課程認定基準を満たすように速やかに是正すること。

3. 教育実習の取組状況

- おおむね良好に実施されているが、教育実習は、大学による教育実習指導体制や評価の客観性の観点から、遠隔地の学校や学生の母校における実習ではなく、可能な限り大学が所在する近隣の学校において実習校を確保することが望ましい。今後、地元教育委員会や学校との連携を進め、近隣の学校における実習先の確保に努めていただきたい。なお、やむを得ず遠隔地の学校や学生の母校における実習を行う場合においても、実習先の学校と連携し、大学が教育実習に関わる体制を構築するとともに、学生への適切な指導、公正な評価となるよう努めていただきたい。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- 定期的なガイダンスの開催や、教職センターが中心となって履修指導を行っていることは確認された。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- スクールサポーターを行っていることは確認されたが、教職に関心のある学生が、早い段階から学校におけるボランティア活動等を通じて、教職の魅力や教員としての適性等を把握した上で、教員免許状の取得を目指すことは重要であることから、今後、学生が教育実習以外にもこれらの学校現場等での体験機会を得ることができるよう、地元教育委員会・学校との連携・協働に努めていただきたい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 図書について、教科書、学習指導要領及びその解説書等の充実をより図っていただきたい。

7. その他特記事項

- 教科教育の専任教員と、教科専門の専任教員が同一学科内にいる利点を活かして、今後より強固な協力関係を築き、教員養成の維持向上に努めていただきたい。